

議 事 録

事務局	案内板の大きさは石井手にある「きつねのお産」と同じ大きさの看板で、横が87cm、縦が70cm、下の柱も含めた高さは2mになる。小野田市史と、平成20年の3月の二挺唐樋の調査資料を基に案内板の案を作り、写真の候補を付けている。なかなか良い写真がなくて、2つの内の1つは、小野田市史の民俗と文化財に載っております写真を取り込んだもの、右の方は社会教育課の方で撮影したもの。
委員	写真は左側の方が全体を把握するにはいい。文面の方で、最初の上の方の行の「後潟開作の最西端」と書いてあるけれども、「後潟開作の堤防の最東端」。同じことが通史の414ページに「汐止めの場所は堤防の最東端であったと思われる」と書いてある。
事務局	市史の方は東となっていたが、地理的には後潟開作の西なのかな、ということ。
委員	堤防の最東端の方が良いような気がする。後潟開作の堤防の最東端。
委員	堤防を入れればそう。入れなかったら最西端。後潟開作を一つの平面として考えれば、一番西側の方になる。今委員が言われるように、堤防を入れれば最東端になる。どっちがいいか。
委員	堤防があった方がわかりやすい。堤防の最東端の方がわかりやすい。
委員	そしたら最東端に。
委員	水利組合の水利委員をやっていて、役員に樋番というのがある。最初に「唐樋」、2行目の最後には「排水用樋門」とありますが「樋」というのと「水門」というはどう違うのか。
委員	個人的には「樋」というのは「水門」ではないかと思う。地元でも樋番のことを水門係と言う。書くときには「樋」で置いておくのか、それとも「水門」か。「水門」であれば、門が2つになる。
委員	「水門」というと、我々は「樋門」と言う。
委員	水門は新しい言い方。歴史的用語だったら「樋門」と使った方が、日本史の上からは良いような気がする。水門で間違いではないと思うが。
委員	「樋番」という言い方もあるし、私たちのところは見て回るのを「水番」という言い方をする。
委員	「樋門」ではないといけない。
委員	江戸時代から「南蛮樋」と「唐樋」の2種類しかない。
委員	「唐樋」だから。その方が歴史においては妥当だろうと思う。
委員	地番が書いてないけれど、たいてい、こういう板面の説明文の時には、それがあるところの場所が書いてある。それと、後潟72町歩という広さをどこかで使った方が親切。
事務局	それは、後潟開作の広さということ？
委員	実面積ではなくて、普通我々が言うときは72町歩と言う。実面積は80くらいだけど、田畑だけでは72町歩。市史にも総面積は86町8反と書いてある。ところが、86の中には川とか道路とか全部含ま

	れるから、それらを皆除けると72町歩。二挺唐樋の使命と言うか能力、72町歩の排水の役目をしたということをごどこかに入れたほうが良い気がする。それから、この後潟開作は阿川毛利の開作だが、「ここは宝暦2年、阿川毛利が」というような形で、阿川毛利の開作ということがわかるようにしておいたほうがよい。
委員	資料に、「貞享4年に阿川・・・と厚狭毛利」と書いてあるが。
委員	それは厚狭川の河口を干拓しようという計画が最初出来る。それから5・60年も後に、実際は阿川毛利広漢がやるようになる。厚狭川の西の方は、今度は厚狭毛利がやる。東の方が阿川。あそこに210町歩位の計画が最初あるが、その東半分を阿川、西半分が厚狭毛利の開作に変わっていくわけ。
委員	文章の下から4行目、樋門の大きさは長さ8m50cm、幅3m20cm、高さ4m55cmとあるが、これは通路でしょう。樋門は8m50cmもある？
事務局	二挺唐樋の招き戸があるところの幅ではなくて、下を通っている水路の長さのことかなと思う。
委員	見る人も困る。招き戸の方をむしろ言った方が親切。これぐらいの大きさに2枚ありましたと。8m50cmでは長さがわからない。
委員	写真の中に長さを書いた方が親切。
委員	お客さんは、おそらく浜の唐樋とこことを一緒に行くだろう。浜は実物があるから、招き戸の大きさを、こっちは2m、こっちは1mと載せた方がよい。
委員	浜は招き戸の長さを書いてあるか？合わせたほうが見やすい。
事務局	浜の方は大きさが書いてない。あそこは実物がそのまま残っているが、ここは実物がないから載せた方がよいと思った。
委員	大きさが書いてあった方がよい。どんな形状だったかということは書いておかないといけない。
委員	招き戸の長さを括弧か何かで入れたらどうか。形状、大きさを表したいというのであれば。今のような誤解があるから。
委員	この文面で、高泊開作の五挺唐樋と同じ構造と書いてある、これはとても大事な文面。もしもこの写真を使われるとすると、この中に数字は書き込めないから、aとかb、cと書いておいて、そして下にaの長さはいくら、bの長さはいくら、cはいくらと書いたらよい。
事務局	長さはこの幅ですね。(樋門の調査図を見せながら)、ここにあるようにここが樋門ですね。こちらを海側とするとこちら側は遊水地側。この幅が8m。
委員	これは二挺唐樋の案内板なので唐樋の寸法がわかったほうがいいのでは。二挺唐樋案内板と書いてある。
事務局	唐樋だけ考えると幅と高さだけでいい。長さは必要ない。長さが出てくるから、どこなのだろうかになって、ちょっとわかりにくい。
事務局	長さを最後に持っていくような形で、「樋門の大きさは幅3m20cm、高さ4m55cmで水路長、水路の長さは8m50cmです」と

	するとわかりやすいのではないか。
事務局	水路というのがわからないわけ。水路というのが樋門の水路なのか、それとも遊水地から持ってきた、今コンクリートで固めている水路を言うのかというのがわかりづらい。
事務局	なら長さを除けるしかない。
委員	そこを除けて、「招き戸の構造は、高さ・・・」と言うのはどうか。
事務局	「樋門の大きさは」を除けて「招き戸の構造は」という形で？
委員	そうそう。「高さ1m42cm、幅1m44cmの木製で松材を使用して二枚造られていました。」
事務局	それに変わりますか？大きさを除けて招き戸の説明をしますか？
委員	タイトルからしたらその方がいい。今言われた方がわかりやすいのではないか。
事務局	400字の中で、的確に伝えなければいけないということなので、ある程度取舍選択していかないと。
委員	さっき委員さんが言われたように写真の中にいれられないか。
事務局	出来るが、写真は写真でとっておいたほうが。
委員	いいですね。
委員	見取図を入れる余地はないか？
事務局	二次元、平面なので幅と高さしか入れられない。長さを入れようと思ったら、もう一つ別の図面をあげてこないといけない。
事務局	写真も入れないということになると。全てを満たそう思えば、非常にこの看板のなかでは難しいということになる。
委員	おおまかなのがわかればよいのではないか。
事務局	専門家の方にわからせるよりも、普通の方がわかればよい。
委員	招き戸の構造よりも樋門の形状の方が、見に来た人は、どのくらいの大きさのものかわかってよい。
事務局	長さを除けて、樋門の大きさは幅と高さだけにして、それに合わせて招き戸のことを書くというのはどうか？
事務局	72町歩と阿川毛利、ここの所在を入れないといけない。全体の構造を中心に説明するのか、それとも招き戸を中心にするのか、どちらかにしないと、招き戸を入れる、構造も入れるということになると、字数が多くなって入らなくなる。どちらを採るかというのを決めていただくと助かる。
委員	写真は入れてもらえるのか。
事務局	写真は古い白黒を入れる。
事務局	写真があまり小さいと見えない。特に白黒だから、ある程度大きな写真として載せないといけないので場所をとる。写真というのは非常に重要なポイントになるので、写真を小さくするようなことはしたくないと思う。
委員	タイトルが「二挺唐樋」案内板でいいのか。唐樋全体を言うならば、タイトルをちょっといじった方がいいのではないか。
委員	ただ二挺唐樋と書いてあるけれども、書くのだったら後潟開作樋門。

委員	タイトルだから、あまり長くない方がよい。
委員	後潟開作っていうことを入れたら、ちょっと幅が広くならないか？
委員	あそこは後潟開作と言う。
委員	ほかの問題も含んでこないか？あっさり二挺唐樋で示した方がいいのでは。
委員	それがいいと思う。
事務局	そういう樋門は、後潟には他にはないか？
委員	写真があるのだから、樋門の大きさは幅と高さだけを入れて、その下に招き戸の構造を入れればよい。写真があつて、幅と高さは文章で入れてあつて、その下に招き戸の構造はこれでしたよと、大きさがわかる。
委員	これを言い出したのは、昔あそこに招き戸があつたよというのが言いたいからで、やはり招き戸のことは書かないといけない。
事務局	4行目に「招き戸2枚の二挺唐樋です。」となっているが、その後に括弧で、高さ1m42cm、幅1m44cmの木製で松材を使用、とすれば、あまり字数が増えない。
委員	それでもいい。
事務局	で、樋門の大きさのところで、長さを除けて。
委員	長さは誤解があるから、その方が写真と文章のイメージが合っているのでそれでいいのではないか。複雑で素人ではわからないような書き方では効果がないと思うので。ただ、問題は、今は、まったくこの形体を潰してしまっているのだから、昔の形体、取り口と排水口との状態がどういうふうになっているかということ、何らかで、やはりみんなに知らせたいというのが、たぶん委員の考え方だろうと思う。そうすれば、別に写真ではなくて、何か、縁に前の形の、入口のところからの状態から、道を越えて、こちらに排水用樋門があるところまでの状態を書いて、この幅が8m、という様なことを付け加えれば、より詳しいということになる。そうすると、この状態は入りきらないからどうするか。写真だけだったら、今言うように、長さはいらぬ。
委員	写真だけでいいのではないか。
委員	写真の海水側の方の樋門だけでイメージできるとすれば、今の幅と高さ、それから招き戸の説明でいいのではないかと思う。
委員	私もそれでいいと思う。
会長	そういうことで。一応決着をつけたいと思う。
委員	文面案の、どこをどのように変えないといけないかというのを、まとめて報告してみてください。
事務局	追加して入れるのが、まず、後潟開作が72町歩だったということと、あと、阿川毛利7代広漢による開作ということと、今最西端となっているけど、それを堤防の最東端にするということ。それと招き戸2枚のところ、高さと幅と、あと木製で松材を使用ということを書くこと。で、樋門の大きさを長さ8m50cmを除けて、幅と高さだけにする。

委員	で、場所を入れないといけない。
事務局	場所だが、あそこは水路になっていて地番がない。ちょっと地番を書くのは難しいかなと思う。
委員	最後は、立てた時の山陽小野田市教育委員会、平成・年・月というのは入れるか。
事務局	それは当然入れる。で、地番はなしでもよろしいか。
委員	いいのではないか。
委員	高浜はどうですかね。
委員	あそこは黒葉山。自治会は高浜だけど。
委員	今は、自治会は高浜。昔は黒葉山。
事務局	山陽小野田市高浜でいいか？黒葉山の方がいい？黒葉山というのはいない。
事務局	字名が黒葉山というのがあるが、通称名は高浜。今もそういう言い方をお年寄りにはされるが、若い者は、あそこは高浜と言うから、高浜の方がいいかも。
委員	後潟開作が出来た時の自治会でいうと、確か黒葉山。ところが、その後の黒崎開作が出来てくると、黒崎開作の方に対しては高浜。けども、今は黒葉山が高浜の中に含まれた形になっている。だから、地の人には、うち等の方が黒葉山で、向こうの方が高浜と。
事務局	ちょうど境ですよ、あの辺が。ちょうど角で、向こう側の後潟上の方側が黒葉山で、こちら側が高浜。
委員	そう。地の人には分ける。けど、今の人には全部高浜の中に入ってくる。
事務局	高浜の方がいいのではないですかね。
委員	浜の五挺唐樋というのは名詞みたいになっている。ここも、だから二挺唐樋だけでは、子ども達を学校の先生が連れて行くのに、「二挺唐樋に行こう」ではなくて、「後潟の二挺唐樋」と言うか、「高浜・・・」。「高浜」とは言わない、後潟だろうね。
委員	二挺唐樋でいいって言うけど、私は、この場合、黒葉山ではなくて「後潟開作二挺唐樋」。
事務局	けど地区が揉めないか。あそこは高浜でしょう。後潟と言ったら、何で後潟開作なのかと。浜の五挺唐樋は、浜にあるから全く問題がないが、今高浜にある、あその二挺唐樋を「後潟の二挺唐樋」と言うと、やはり、その辺の高浜の人達は、やはり快く思われないのではないか。だから、そういう冠を着せずに二挺唐樋と言う方が、周りの地域の方々にもよい。
委員	ちょっと確認だが、「高泊開作五挺唐樋」になっているのか、それとも、「浜の五挺唐樋」？看板も？
事務局	看板は「周防灘干拓遺跡高泊開作五挺唐樋」。
委員	高泊開作が入っているのか。だったら後潟開作が入った方がいいと思う。これは歴史的なあれだから。
委員	そこの者にちょっと聞いてみないと問題になるかもわからない。
委員	後潟開作だったら揉めない。

委員	後潟開作は歴史的なあれだから、・・・。
委員	一緒にしないといけない。高泊開作というのがあるにもかかわらず、一方は二挺唐樋だけというのは。後潟開作は入れないといけない。
事務局	どうしますか？入れますか？
委員	後潟開作二挺唐樋がよい。
事務局	高浜の自治委員さんも連名で、後潟開作樋門について、ということで陳情書の題名として出ているので、高浜の自治委員さんも後潟開作樋門と認めてもらっている、それでいきましょうか。
委員	それでいいですか？
委員	こういうのは、やはり小学校高学年の子どもまで読めた方がいい。で、きつねのお産には仮名遣いがある。五挺唐樋には打ってないか？
事務局	五挺唐樋は打っている。
会長	仮名打つね。次に行きます。立てる位置が出ているが、どういう案を？
事務局	資料1の最後の写真に電柱が立っているが、その辺が市道になっている。ちょうど海側の水路を埋め立てた所になるが、この位置だったら市道なので、わりと立て易いと思う。
事務局	遊水地側の方は、道路に面しているなので、そちら側に立てると通行に邪魔になるので、街路灯の下にでも、と考えている。
委員	あその道幅が、くにくにくと曲がっている。地元の人が、この道幅ではいけない、いずれまっすぐしないといけないと言うのを聞いたことがあるのだが。あの道路は、ずっとこの形状が守られるものなのか、それとも道幅が広がってくる計画があるかどうか。
事務局	一応土木課に確認したのだが、今のところはない。
委員	今言われた方の左側には、自治会の何かがあるよね。
事務局	掲示板が奥の方にありますよね。
委員	街灯の辺だったら車が通るのに、向こうが見えないということになるかもしれない。
委員	事務局が言われる所に立てると道は狭い、看板が立って向こうは見通しが悪い。
事務局	向こうが見えないのはまずいかもしれない。高浜から堤防に向おうと思ったら、確かにあれがあると見えないかも。しかし、自治会の看板があるところの辺では、全然だめ。
委員	ちょっといけない。
委員	自治会の方に聞かれた方がいいかもしれない。
事務局	事務局の方で、立てる所を地元の方と協議していいところに決めさせてもらう。
会長	次に報告事項に入る。浜五挺唐樋のき損・復旧について、というところ、お願いいたします。
事務局	昨年、浜の五挺唐樋の招き戸を修理したばかりだが、また今年も、春になって、今度はロクロの一番左側のところが腐って落ちた。出来れば7月には復旧工事に入りたいと思い、木下工務店の方に工事のお願いをしている。

委員	木の代わりにコンクリートで作ったらどうか。松で作っても、また何年か経ったらポキッと折れたりするのではないか。この間修繕をしたばかりで、こう再々しないとイケないということになると大変だ。
事務局	3月に直したのは、下の招き戸の部分。
委員	松ほどのくらい持てるものか。
事務局	本当は平成24年に修理する予定で、前回は平成16年ので、8年間くらい持つということでやっているが、平成16年にした分が、平成20年に、別の分が1本、もうロクロが腐って落ちたりとかもある。
委員	たった4年しかたっていない。
事務局	今回の分は平成16年なので、もう6年。
委員	にせものでないとね、限がない。昔は材料がなかったからやったのだけど、これは国がどう言うか。
事務局	国指定だから。
委員	まがい物でもいいのではないかという気がしますけど、国の方にそれとなく確かめてみて、いいよと言うのなら。
委員	国がイケない、ということなら、仕方ないけど。
事務局	どちらにしても、平成24年には、全部やりかえる予定に元々していたので、まだ16年に作って壊れてない分もあって、その分は直さないといけないので、その時も含めて検討する。
委員	市にとっては、唯一の国指定だから、出してもらって。
事務局	むしろ木の方がより丈夫。
委員	木の方が、本当を言ったら丈夫。
事務局	プラスチックだったら、紫外線に当たると割れる。
委員	昔は石垣を組んでも、下に全部松使った。何百年も持つのだから。水やら潮がある所で長持ちをしている。
委員	同じことが2度あったらイケないから、この落ちた原因は何だろうか一回考えてみる必要がある。一番左だけは転がり落ちるような状態に設置されていたのか、ちゃんと止める様にしっかりしていたのか。
事務局	石が窪んだ所に、間の鉄の棒を挿しているのだから、普通の状態では転がり落ちることは、地震でもない限りない。
事務局	転がり落ちたら、水面の方にドンと落ちるのではないか。すぐその真下に、ちょうど上手に2つが揃って、その下に落ちている。おかしいと思う。
委員	それは、案外、紐が跳ねないように、そこで働いたかもしれない。同じことが2度起こらない様に。これは全部市の負担か、何分の1の負担なのか？
事務局	国とか県の補助はない。全面的に直すような場合は国とか県から補助があるが、今回の分に関しては、通常の維持管理費の一環として扱われ、通常の管理は管理者が行いなさいということになっている。
委員	通常の管理？市から出す訳？
事務局	はい。
会長	ご苦労なことです。次に言ってよろしいでしょうか。木戸刈屋盆唄に

	ついて。
事務局	資料3、これは宇部日報、本年の6月10日木曜日の宇部日報の記事で、これは皆さんにご覧になっていただければという程度のもの。木戸刈屋盆唄が、全国の第50回全日本民謡指導者講習会において披露された。場所は静岡県熱海市、アタミ・ニューフジヤホテルというところ。こういふことで、木戸刈屋盆唄も、全国的に知られたということの参考に皆さんにご覧になっていただければ。これについては、文化財の関係で、市議員から市議会の時に質問が出て、たまたまその時に、こういふ宇部日報の記事が出たので、文化財審議会の皆さん方にも一読をしていただければというこゝで、資料として付けた。
委員	旅費をどうしたのか。
事務局	詳しいことはわからないけれど、この地元の方から、一生懸命やっているのでも市の方でもよろしくという話があったので、「承っておきます」というこゝで回答している。こういった無形文化財について、いろいろありますので、木戸だけとはいかないので。
委員	地元の後継者がいるかどうか。
事務局	その内、ちょっと見ていかないといけないだろう
委員	これに書いてある。「保存会は後継者問題で厳しい状況にある。」
会長	これと関連するが、旧山陽町の下津～盆とかいうのも。そういうような地元で伝わる昔からの民謡というのを、一応録画しておくなり録音しておくなり、記録しておかないといけないのではないかと思う、何かの機会に。その他何かあるか。
委員	最近の広報を見て2つの気づき。7月1日号に、まち再発見36というのがあって、この文章の中で厚狭の千町ヶ原（せんちょうがはら）のことを、仮名を入れて「千町ヶ原（ちまちがはら）に縦横に構築」と書いてある。カタカナを打たなければいいのに。
事務局	たぶん校歌を聞いて書かれたのではないか。
委員	それはどうでもいい。町史や地下上申を見て「せんちょうがはら」とずっと来ているから、「ちまちがはら」というのを私は始めて知った。
事務局	今の委員さんが言われている文章の表現についてはごもっとも。
委員	もう一つ。3月15日号の一番裏の厚狭図書館の行事に、講演会「ねたろう物語の伝説」というのがあって行って来た。もらった資料に「わらじ、千石船～」と書いてあって、話の中で、この文章は風土注進案に記録されているとあった。風土注進案には絶対にわらじのことは出てこない。新聞にも書いておられるのだろう。宇部日報の連載の第1回目は、この寝太郎だったが、風土注進案に出ていると書いてある。もらった資料には、金のわらじや、金持ちの庄屋から船を造ってもらったと載っているが、それはそれで止むを得ないかなと思うが、風土注進案に出てくるといふことが文章とか活字になって出てくるといふことは、これは、ずっと一人歩きしてしまう。知らない者が、風土注進案に金のわらじのことが出てくるのかということになったら宜しくないと思う。せめて今後はわかって欲しい。

委員	わらじの話は、町史には昭和28年の新聞に載っているのが出ているが昔はなかった。最近になって、昭和4年の下関で出た新聞の中にわらじのことが出ていたことがわかったが、それ以前のことは、まだわからない。
委員	講師が社会教育課の事務局をやっていた時に、旧山陽町の文化財審議会で、厚狭の寝太郎はあくまでも伝説であって、ものすごく研究した。たぶん忘れていたのだろうと思う。決着をつけた時の、一番進めていった人だから。
委員	忘れていたということはない。自分も山陽町の文化財審議会に何年かいたけど、文化財審議会の時に、教育長が、どうしてもこの寝太郎物語を民俗の指定文化財にしてくれと言われる。商工会議所や町長に頼まれたのもあった。だけど、絶対駄目ということ、松里先生ほか皆さんが主張した。
委員	絶対、風土注進案には載っていない。
委員	厚狭川の辺にわらじとか船とかいろいろあるが、苦々しい気持ちでいつも通る。
委員	観光PRに使うための一つで考えるのはいいと思う。郷土を盛り上げるためにいい。だけど、これは史実ではないということを文化財審議会で決めたら変えてはいけない。過去に過ぎたことだから、いつの間にか作り上げてしまうという、非常にあいまいなところができると思う。それはものすごく気をつけないといけないと思う。
委員	周防灘干拓の唐樋については、高泊開作の五挺唐樋は片一方の0,5で、もう一つの0,5が名田島にある、国の周防灘干拓の排水の唐樋は。名田島の分も我々は知っておく必要があると思う。だから、そのもう一つの分を我々審議会の者が見に行く機会を作られた方が、私はいいと思う、あそこを説明できる方をお願いして、見ておく必要が私たちにはあると思う。